参考資料5－2

日本財団ニュース

日本財団全面広告

① スポーツ・文化・生活

'94 音楽を通した国際貢献を目指し、バイオリンの名器（ストラディヴァリウス等）貸与事業を支援開始

湘南オープンウォータースイミング2005
2005年8月12～14日
海・湖・川など自然の中で泳ぐ、いま人気のスポーツ。今年もまた、湘南海岸を舞台に遠泳競技が繰り広げられます。昨年は、およそ1,000名が挑戦しました。

'96 障害者と健常者が一緒に走る「東京ふれあいマラソン第1回神宮外苑ロードレース」開催

'97 犯罪被害者とその家族をサポートする「犯罪被害者相談室」の設置を支援

日本太鼓連盟を設立し、日本太鼓の普及・振興を推進

'98 ハワイ・ホノルルで「第7回世界ゲートボール選手権大会」開催（11カ国1地域から1,261名の選手が参加）

'99 中国残留日本人孤児支援事業で1,000人が日本国籍を取得

中国の大学へ日本の教育研究図書を寄贈する事業を開始（2002年までに、約50万冊を寄贈）

'00 不登校生の進路と社会参加のネットワークづくりを支援

心身に障害のある方が楽しめるオーケストラコンサートの開催を支援

'01 「金剛能楽堂」の建設を支援

不登校生対象の生野学園中学校（兵庫県）、白根開善学校（群馬県）の中学生寮の建設を支援

'02 地域住民のスポーツへの参加率を競う「チャレンジデー」に全国82自治体、88万人が参加

子どもたちの「科学する心」を育むための、全国こども科学映像祭を開催

実演家と教師による、中学校での和楽器授業のモデルづくりを支援

'03 高齢者の健康づくりを目指した転倒・寝たきり予防プログラムを全国規模で展開

中・高校生のための能・狂言教室の開催

'04 全国の犯罪被害者支援組織へ活動資金を助成。支援員養成セミナーの開催、被害者支援の必要性の周知など犯罪被害者支援を拡大

② 社会福祉

'93 「知的障害者福祉研究会」を設置し、障害者の自立のあり方を提言

知的障害者グループホームの建設を支援

'94 多機能型高齢者用通所モデル施設「ケアポートよしだ」オープン

'95 高齢者ケア国際シンポジウム「看護と介護のチームプレイ」開催

'96 「ホスピス研究会」を設置

大阪中国帰還者センターの建設を支援

'97 障害当事者の自立生活のための海外先行事例の調査研究を支援

光ケ丘スペルマン病院ホスピス（仙台）の建設を支援

'98 ホスピス研究会の提言を受け「ホスピスナースの養成研修」を開始

日本初の盲導犬に関する調査を実施

'99 社会福祉法人に対する福祉車両の配備事業を拡大

長崎にて終末医療のあり方を考えるセミナー「メメント・モリ」を開催

'00 日本初の夜間保育における総合調査、児童の心理調査を支援

誰もが使いやすいトイレの研究を行い、調査報告書「ユニバーサルトイレ調査報告」を発行

'01 ホスピス研究会の提言を受け「ホスピスドクター研修」開始

神戸市で開催の第13回「世界移植者スポーツ大会」を支援

'02 結核検診のための身体障害者用胸部撮影車の整備

障害者マリンスポーツチャレンジの実施

知的障害者（通所）授産施設の建築

'03 盲導犬訓練士養成のための研修会の開催や盲導犬繁殖に関する調査研究などを支援

死を想え
memento mori

人生をより良く生きるためのセミナー「メメント・モリ」を開催しています。

'04 障害者の就労・地域生活の拠点整備を促進するため、既存物件の改修工事に対する助成をスタート

③ 海外援助

'85 アフリカ食糧増産プロジェクトを開始

'87 将来を担う若きリーダーを育成する「ヤングリーダー奨学基金」を設置

'92 開発途上国から米国へ留学する視覚障害者のための奨学基金を設置

'93 ペルーにおける基礎教育向上のための小学校建設を支援

'96 国際社会の課題を究明するためにシンクタンクの世界的なネットワークづくりを支援

世界の知識人を集めて人類の行く末を論ずる「フォーラム2000」を開催

'97 アジア諸国からの留学生のための相談事業を支援開始

'98 視覚障害者教育技術を開発途上国へ移転、プログラム推進のための基金を設置

GHQが検閲・回収した日本の出版物の整理・保存事業を支援

'99 カンボジアにおける東南アジア地域の義肢装具士リーダー養成プログラム開始

カンボジアにおける基礎教育向上のための小学校建設（100校）の支援を開始

'00 アジアの知的リーダーのための研究奨学制度「日本財団アジア・フェローシップ」開始

視覚障害者の大学教育を支援する「国際大学連合」の設立を支援

'01 「旧満州国・南満州鉄道関連歴史史料の整理・保存事業を支援

ブラジルにおける日系老人ホームの整備

'02 中南米諸国においての日系人に対する日本留学の機会の提供

ミャンマーにおける平和と発展のための小学校建設支援を開始

'03 開発途上国の海事・海洋法関係者に対する奨学金プロジェクトを設置

モンゴルにおける家庭医養成を通じた伝統医療普及プロジェクトを開始

'04 1980年代以降、1,400万人が治癒し、世界のハンセン病患者数は約50万人に激減、2005年末を制圧目標としている。また、制圧だけでなく、患者・回復者やその家族の尊厳回復活動も継続的に展開

ベトナムの障害者のための義肢装具支援2万点支給を達成

④ ボランティア・NPO

'93 ボランティア活動助成を開始

'94 ボランティア活動助成金を新聞紙上で公募開始

移送サービスのための福祉車両配備事業を開始

'95 阪神・淡路大震災の緊急・復興ボランティア活動を支援

ボランティア活動助成金を年2回の公募体制へ拡充

'96 里山保全活動への助成を拡大
「阪神・淡路コミュニティ基金」を設立し、震災後の復興活動に取組むボランティア団体に対し集中的に活動資金を助成

'97 福井県三国町でのタンカー重油流出事故に伴う漂着重油除去の緊急・復興ボランティア活動支援

指先で操車可能なジョイスティック車「JOY VAN」全国キャラバンスタート

'98 北関東・南東北大洪水害、高知県大洪水害へのボランティア活動に対して緊急支援

精神・知的障害者が海外生活を体験するための拠点「豊工房USA」を支援

'99 台湾大震災による被災者支援のボランティア活動へ緊急支援

3.3%の力。
日本財団は、競艇の売上金の3.3%を財源に公益活動を推進しています。

'01 ボランティア活動助成金の「助成事業成果発表会」を実施

移送サービス団体のネットワークづくりのための研究会開催

'02 不登校児問題に関するさまざまな処方箋を提示するためのフォーラムを開催

「子どもの元気」を引き出すことをテーマに活動するNPO法人に助成事業を開始

'03 全国のNPOセンターを対象に安定かつ自立したボランティア活動を推進するための資金調達に関する事業例発表会を開催

犯罪被害者に対する支援を実施

'04 各地で育まれてきた伝統や文化を継承し、地域を元気にする活動を支援する第1回「郷土学」事業、17団体17事業を支援

⑤ 海洋

'87 世界海事大学へ支援「笹川フェローシップ」の提供を開始

'89 次世代高速船「テクノスーパーライナー」の開発研究を開始

'90 超大型浮体構造物メガフロートの開発研究を開始

'93 流出油防除資機材をアセアン諸国へ寄贈

'94 欧州と東アジアを結ぶ最短ルート「北極海航路」の啓開の研究を支援

'95 海上災害防止センターへ流出油防除訓練施設および油回収装置を整備

'96 東京お台場・船の科学館で戦後の青函連絡船「羊蹄丸」の展示を開始
「国際海洋シンポジウム」を開催
超電導電磁推進船ヤマトを展示

'97 地球環境に優しい舶用ガスタービン「スーパーマリンガスタービン」の開発研究を開始
海をテーマに優れた小説、童話などを表彰する「海洋文学大賞」を創設

'98 舶用機器の商取引をインターネットにより効率化する「造船Web」の開発を支援

'99 国際海事大学連合の活動を支援

海賊事件の再発防止を目的にした「海賊対策セミナー」を開催

'00 「日本の外航海運の現況に関する調査」報告書を発表

'01 マラッカ海峡の安全確保のため設標船ペドマン号を建造

高性能な大型消防船「きよたき」の建造を支援
和船・船大工に関する基礎調査とデータベースの構築を開始

'02 海上防犯、航行安全、海洋環境保全の活動を行う「海守（うみもり）」活動を推進
水際の事故を未然に防ぐライフセービング活動を支援
21世紀におけるわが国の海洋政策に関する提言を発表

'03 人と海との共生を目指し海洋に関する様々なデータを集めた海洋白書を刊行

海の生態系に影響を与えるバラスト水の処理等に関する調査研究を支援

日本の海の現状を認識する機会を提供するため、北朝鮮工作船を船の科学館で一般公開

'04 海を見守るボランティア「海守（うみもり）」会員55,900人を突破

日本の排他的経済水域を定めるうえで重要な沖ノ鳥島へ民間視察団を派遣

⑥ 社会の出来事

'90 統一ドイツ誕生

'91 ソ連崩壊、11共和国で独立国家共同体形成

長崎・雲仙普賢岳噴火

'94 大江健三郎ノーベル文学賞受賞

'95 阪神・淡路大震災発生

オウム真理教による地下鉄サリン事件発生

素敵な音楽でひとときを。
日本財団ビルで
ミニコンサートを開催
入場無料

詳しくはWebサイトの「日本財団バウルーム」をご覧ください。

'97 タイガーウッズ、マスターズで21歳の史上最年少優勝を達成

'98 長野冬季五輪、史上最多の72カ国と地域が参加して開催

サッカーワールドカップ開催、日本初出場

'99 NATO空爆停止、ユーゴ軍撤退
M・グリーン男子100mで9秒79の世界新
マカオ，ポルトガルから460年ぶりに中国に返還

'00 一連の「グリコ・森永事件」がすべて13日午前零時で時効

'01 大リーグ野茂、史上4人目の両リーグでのノーヒットノーランを達成

米国・同時多発テロ
北朝鮮工作船、奄美沖で銃撃戦の末沈没

'02 ハンセン病、国と原告が基本合意に調印、非入所者も補償

ベルリン映画祭・金熊賞に「千と千尋の神隠し」

日韓共催でサッカーワールドカップ開催

'03 米英軍主導でイラク攻撃を開始

阪神18年ぶりにリーグ優勝を達成

中国で初の有人宇宙船打ち上げに成功

'04 大リーグ・マリナーズのイチロー、メジャー年間最多257安打を抜き大リーグ新記録を達成

インドネシア・スマトラ島沖でM9.0の大地震発生。津波により未曾有の被害

これは日本財団の活動の一部です。

私たちはこれからも、支援を必要とされる方々の声に耳をかたむけて、活動していきたいと考えています。

全国で走る福祉車両 約13,000台

日本財団は高齢者・障害者の在宅福祉サービスの充実を図るため、福祉車両の配備に取り組んでいます。これまでに助成した福祉車両は全国で約13,000台。今年度も約2,000台の支援を予定しています。

日本財団トピックス

沖ノ鳥島へ ㊞民間調査団を派遣

日本の最南端に位置する沖ノ鳥島は、日本の国土を上回る約40万平方キロメートルの排他的経済水域を有する重要な島である。同島とその周辺海域の有効活用を検討するため、海洋生物や海洋工学、海洋温度差発電、灯台などといった航路標識に関する専門家などで構成した調査団を2度派遣し調査した。日本財団が取りまとめた報告書がきっかけとなり、各機関による同島の有効活用が検討されている。

■日本財団役員名簿　2005年6月1日現在

会長	曽野綾子	作家
理事長	笹川陽平	(社)全国モーターボート競走会連合会 名誉会長
常務理事	大野修一	
常務理事	尾形武寿	
常務理事	長光正純	
常務理事	森田文憲	
理事	牛尾治朗	ウシオ電機(株) 代表取締役会長
理事	藤山幸夫	(社)全国モーターボート競走会連合会 会長
理事	梶田功	前 全国モーターボート競走施行者協議会 会長
理事	田久保忠衛	杏林大学 客員教授
理事	的場順三	(株)大和総研 顧問
理事	間野忠	(財)日本海事協会 名誉会長
理事	渡部昇一	上智大学 名誉教授
常勤監事	桑山陸	
常勤監事	増田裕夫	
監事(非常勤)	剱持昭司	税理士
監事(非常勤)	村山徳五郎	公認会計士

■日本財団評議員名簿　2005年6月1日現在

石黒克巳	元・毎日新聞社 代表取締役専務
金平輝子	元・東京都副知事
黒明良光	前・(社)日本モーターボート選手会 会長
近藤恭子	千葉商科大学 政策情報学部 教授
下村のぶ子	(株)海竜社 代表取締役社長
鈴木富夫	出版倫理協議会 議長
高木剛	UIゼンセン同盟 会長
千野境子	産経新聞 論説委員長
土井勝二	日本空港ビルデング(株) 代表取締役副社長
中平幸典	(株)国際経済研究所 副理事長
松井義雄	読売新聞東京本社 代表取締役会長
松本健一	麗澤大学国際経済学部大学院国際経済研究科教授
三好正也	(株)J-WAVE 代表取締役会長
屋山太郎	政治評論家
米長邦雄	(社)日本将棋連盟 会長・永世棋聖

所在地：〒107－8404東京都港区赤坂1-2-2
総合案内：TEL.03-6229-5111

［重要な会計方針］

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について　評価基準は、原価基準により行っています。評価方法は、個別法により行っています。
(2) 固定資産の減価償却について　固定資産のうち償却資産については、直接償却の方法により取得価格の100分の95に達するまで定額法により減価償却を行っています。
(3) 引当金の計上基準について　貸倒引当金は、貸倒懸念債権等の特定債権に対する取立不能見込額等を勘案し、所要見込額を計上しています。退職給与引当金は、役職員及び嘱託の退職手当の期末退職手当要支給額の87.5%を計上しています。
(4) 資金の範囲について　資金の範囲には、現金・預金、未収金、仮払金、未払金、未払諸税、前受金、仮受金及び預り金を含めています。
(5) 消費税の会計処理について　消費税の会計処理は、税込方式によっています。

■貸借対照表（2005年3月31日現在）　（単位：千円）

科目	金額
（資産の部）	
流動資産	
現金・預金	9,498,731
その他の流動資産	955,274
流動資産合計	10,454,006
固定資産	
基本財産	
預金	2,467,435
金銭信託	10,000,000
有価証券	910,708
土地	13,698,078
基本財産合計	27,076,223
その他の固定資産	
有形固定資産	5,948,771
無形固定資産	169,700
その他の資産	
長期貸付金	161,014,900
貸倒引当金	▲1,000,000
その他	68,945,179
その他の資産合計	228,960,079
その他の固定資産合計	235,078,551
固定資産合計	262,154,774
資産合計	272,608,780
（負債の部）	
流動負債	
未払金	2,429,731
その他の流動負債	1,856,601
流動負債合計	4,286,332
固定負債	
退職給与引当金	763,946
負債合計	5,050,278
（正味財産の部）	
基本金	27,076,223
基金	
貸付基金	203,000,000
業務費平衡基金	20,517,700
固定資産取得基金	4,675,800
基金合計	228,193,500
固定資産見返勘定	6,121,105
剰余金	6,167,673
正味財産合計	267,558,502
負債及び正味財産合計	272,608,780

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

■収支計算書（2004年4月1日から2005年3月31日まで）（単位：千円）

科目	予算額	決算額	差異	
（収入の部）				
交付金	33,992,890	32,174,227	▲1,818,662	＊1
利息収入	633,665	875,087	241,422	
その他の収入	337,181	449,098	111,917	
当期収入合計	34,963,736	33,498,413	▲1,465,322	
前期繰越収支差額	4,804,553	5,343,524	538,971	＊2
収入合計	39,768,289	38,841,938	▲926,350	
（支出の部）				
業務費	36,411,530	30,541,676	▲5,869,853	
貸付業務費	385,000	104,280	▲280,719	＊3
補助金1号	13,200,000	10,240,223	▲2,959,777	＊4
補助金2号	13,000,000	12,042,091	▲957,909	＊5
海外協力援助費	4,350,000	3,120,344	▲1,229,655	＊6
国内協力援助費	1,000,000	820,350	▲179,650	＊7
情報公開費	998,000	991,645	▲6,354	＊8
調査研究費	1,898,000	1,848,612	▲49,387	＊9
特別協賛金	1,580,530	1,374,130	▲206,399	＊10
管理費	2,093,600	1,843,123	▲250,476	＊11
雑支出	10,000	65	▲9,935	
固定資産取得支出	200,000	139,399	▲60,600	
基金引当資産支出	10,000	-	▲10,000	
特定預金支出	150,000	150,000	-	＊12
予備費	893,159	-	▲893,159	
当期支出合計	39,768,289	32,674,264	▲7,094,024	
当期収支差額	▲4,804,553	824,148	5,628,701	
次期繰越収支差額	-	6,167,673	6,167,673	

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

＊1.「モーターボート競走法」により定められた日本財団への交付金（モーターボート競走売上金の約3.3%）
＊2. 2003年度の収支の差額を2004年度に繰越した金額
＊3. 造船事業者を対象とした貸付事業に伴う租税公課等
＊4. 公益法人（財団法人や社団法人）が行う海や船に関する事業を支援するための経費
＊5. 公益法人（財団法人や社団法人、社会福祉法人）が行うスポーツ、芸術文化、教育、社会福祉等に関する事業を支援するための経費
＊6. 国連機関や海外のNGO等の行う事業を支援するための経費
＊7. 国内のボランティアが行う福祉や環境等に関する活動を支援するための経費
＊8. 新聞、雑誌、Webサイト等で活動内容を公開するための経費
＊9. 日本財団が行うシンポジウム等について調査・研究を実施するための経費
＊10. モーターボート競走法施行規則に基づき実施される特別競走交付金により、公益性の高い事業に対し支援する経費
＊11. 役職員の給与の他、福利厚生、租税公課、事務や出張等に関する経費
＊12. 退職給与引当金に繰り入れるための経費

（休眠施設を、福祉の拠点に。）

日本財団は、そのための改修事業を積極的に応援しています。

日本には古くなった物を直して、大切に使うという良き文化がありました。その文化を受け継ぎ、使われなくなった建物を改修し、高齢者や障害者の方の福祉施設に役立てていただく事業です。

◎眠っている地域資産の再活用
◎安く、早く、手軽な施設整備
◎助成金の申請は随時受付中

改修事業をお考えの方は、ぜひご検討ください。詳細は下記のWebサイトへ。

例えば、築150年の古民家や会社の倉庫がコミュニティーやショップに。

［写真上］築150年の民家→デイサービスセンターへ
「小規模多機能型コミュニティーホーム『吉野の家』」（大分県大野郡三重町）

［写真下］会社の倉庫→知的障害者のパン工房&ショップへ
「Mamas Papas（ママス・パパス）」（熊本県鹿本郡植木町）

日本財団
The Nippon Foundation

日本財団のすべては、こちらのWebサイトでご覧いただけます。―― http://www.nippon-foundation.or.jp/